

2025年度	科目名	発達障害教育特論
	英語名	Advance Seminar on Developmental Disability Education
	科目属性	専門科目 B 群
	担当教員	西永堅
	単位数	2単位 (SC 0単位)

【授業の狙い】

発達障害は、知的障害を含む、主に認知発達の遅れを示すものである。もともとは、発達障害には、身体障害等も含んでいたが、DSM-5 から、神経発達症（Neuro Developmental Disorders）となり、知的障害や、LD,ADHD,ASD など脳神経系の発達の問題に限定された。

また、発達障害がある子どもたちも対象としたインクルーシブ教育は、障害がある子どもとない子どもが共に学ぶことと誤解されているが、本来は、子どもを障害のあるなしで二元論に分けることなく、障害の有無に関わらず、誰もが公平で質が担保された教育を受ける権利を保障していくことである。身長が発達に個人差があるように、脳認知においても発達の個人差があるのは当たり前であり、それぞれの発達やニーズに合わせた、教育の多様性がさらに求められていくことになる。本科目においては、発達障害がある子どもたちだけではなく、すべての子どもたちを対象とした、個別最適な学びとしてのインクルーシブ教育を、特別支援教育の歴史から誤解を解消しながら学んでいくことを目的としている。

【授業計画】

- 第 1 回 共生社会の実現と特別支援教育のあり方
 - 第 2 回 多様性を前提とした学校づくり
 - 第 3 回 交流及び共同学習による「学び合い」の推進
 - 第 4 回 連続した多様な学びの場の一つとしての「特別な教育の場」の機能の充実
 - 第 5 回 乳幼児期の支援と就学への支援
 - 第 6 回 学習環境と生涯学習への支援
 - 第 7 回 意思決定の支援
 - 第 8 回 国際的潮流の中での我が国の特別支援教育
 - 第 9 回 通常学級における「特別」ではない支援教育
 - 第 10 回 各教科等を合わせた指導、教科別の指導の効果的展開
 - 第 11 回 自立活動と「個別の指導計画」等の効果的活用
 - 第 12 回 カリキュラムマネジメント
 - 第 13 回 授業研究の充実
 - 第 14 回 ICT 活用による指導、キャリア教育の充実
 - 第 15 回 多様なニーズのある児童生徒に求められる対応
- 科目修得試験

【評価方法】

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合しての評価となる。

【教科書】

全日本特別支援教育研究連盟（編著）（2023）これからの特別支援教育はどうあるべきか 東洋館出版社 449105388X

以下は、ダウンロード可能

西永堅. (2024). 心身健康科学とインクルージョン. 心身健康科学, 20(1), 30-32.

西永堅. [特集] 知的・発達障害のある子どもたちへの well-being 支援. 星槎大学紀要 共生科学研究, 17, 41-47.

西永堅. (2018). 共生教育としてのインクルーシブ教育. 共生科学, 9(9), 82-87.

西永堅. (2016). 特殊教育からインクルージョンへ. 星槎大学紀要 (Seisa Univ. Res. Bul.) 共生科学研究, (12), 25-36.

【参考図書】

American Psychiatric Association. (2023). DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.

西永堅. (2021). 子どもの発達障害とソーシャルスキルトレーニングのコツがわかる本. ソシム.

西永堅. (2017). 子どもの発達障害と支援のしかたがわかる本. 日本実業出版社.